

電波利用環境委員会報告概要(案)

～CISPRの審議状況及びストレージ会議対処方針について～

平成27年8月24日
電波利用環境委員会

最近の主な審議状況及び対処方針(A小委員会)

A小委員会

妨害波測定装置及び妨害波測定法の基本規格を策定

● 30 MHz以下の周波数帯における放射妨害波測定

【審議状況】

現在、我が国のエキスパートがプロジェクトへ参加し、国際規格として未制定である、30 MHz以下の周波数帯における放射妨害波の測定法及び放射測定場に関する要求事項を審議している。本要求事項としては、10m法電波暗室内において3mの距離からループアンテナによる磁界測定を行うことを基本方針としている。

我が国はこれまで、3m法、10m法電波暗室内における磁界測定について、ラウンドロビンテスト(RRT)を実施し、試験結果を報告するなどの貢献をしている。

【対処方針】

測定サイト・アンテナ校正法に関して、我が国の試験結果や意見がCD案に反映されるよう対処する。

● 新たな試験法や測定装置の提案及び既存規格(CISPR 16-2-1、16-2-3)への反映等

【審議状況】

今後の製品規格の改定に向けて、新たな試験法や測定装置の提案を我が国から行っている。これまで、非対称トランスを用いた擬似通信回路網(AAN)、30 MHz以下における3軸磁界ベクトル測定法及び設置場所試験法などの必要性を説明し、具体的アクションに向けた検討を開始した。

【対処方針】

試験の精度や効率を改善することを目的として、上記項目に加え、6面電波暗室(FAR)サイト評価改善法、ラージループアンテナ評価法の改善を提案する。既に提案しているテーマについては、今後、JTFなどを立ち上げ、議論が加速するよう積極的に働きかけることにより、既存規格の改定を目指す。